
目次

3 はじめに

1 展示事業

4 1-1 所蔵品展示
13 1-2 企画展
36 1-3 共催展など
40 1-4 アーティスト・イン・ミュージアム [AIM]

2 教育普及活動

41 2-1 講座・ワークショップなど
48 2-2 アートコミュニケーションプロジェクト

3 県民関連

51 3-1 県民ギャラリー
53 3-2 美術館サポーター
55 3-3 他機関への協力

4 所蔵作品と図書

60 4-1 新収蔵作品
71 4-2 作品貸出記録
72 4-3 作品の保存修復
77 4-4 主要刊行物
78 4-5 主要新収蔵図書

5 組織と関連法規

79 5-1 組織・業務と職員
81 5-2 協議会・委員会
82 5-3 関係法規

6 沿革と施設

90 6-1 沿革
98 6-2 施設概要
101 6-3 観覧者数

7 利用案内

104 7-1 利用案内
105 7-2 後援会

研究紀要

107

はじめに

このたび、令和4(2022)年度の事業をまとめた『岐阜県美術館年報 39号』を発行いたします。昭和57(1982)年に開館した岐阜県美術館は、開館40周年を迎えました。

令和2(2020)年から感染拡大の波が繰り返された新型コロナウイルス感染症はこの年も猛威を振るいました。そうした状況を踏まえ、美術館機能の回復と対策をすすめながら開催した「塔本シスコ展—シスコ・パラダイス かかずにはいられない！ 人生絵日記」は、日常生活を謳歌するエネルギーが大きな反響を呼びました。また、コレクションの厚みを生かした「開館40周年記念 美術館の名品ってナンヤローネ 岐阜県美術館名品尽くし！」は、アフターコロナにおける美術館事業の展開を示唆するものとなりました。さらに、郷土出身の巨匠の全貌を紹介する「開館40周年記念 前田青邨展 究極の白、天上の碧—近代日本画の到達点—」は100点を超える作品群によって、記念すべき年の掉尾を飾りました。併せて、所蔵品展では、当館の活動の基盤となる多分野に渡る豊かな所蔵品をご紹介します。「アートまるケット」では引き続きオンラインコンテンツを提供しました。

作品収集においては、オディロン・ルドンの貴重な作品を購入したことをご報告いたします。寄贈においては、岡田三郎助、塔本シスコ、土屋順紀、横山奈美をはじめとする充実した収集内容となりました。多くの方々のご厚意に御礼申し上げます。

教育普及活動では、人数制限や手指消毒を徹底し画材の共有を避けるなど運営方法を工夫しさまざまな催しを実施しました。感染症対策が進むとともに、団体鑑賞等、来館者数が戻りつつある一年となりました。アートコミュニケーター「～ながラー」は初めての任期満了者を送りだし、1期「～ながラー」が「湊カラー」に任命されました。

本書は、美術館活動の一環として紀要を併録しています。新型コロナウイルスの影響が未だ残る年ではありましたが、岐阜県美術館は、県民をはじめとする皆様方の期待に応え、社会に開かれた美術館を守り担っていくよう、一層努力してまいります。ますますのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和6年3月
岐阜県美術館